

神の名前

シリーズ～さよならキリスト教～

2024/8/25

「神」という言葉

• 日本語の「神」が表すもの

- キリスト教が伝来するまでは神道における「神」を表す言葉だった
- 神道において神と人間は連続的に繋がっている
- 「尋常(よのつね)ならず人の及ばぬ徳(こと)のありて、畏(かしこ)きもの」(本居宣長／江戸時代国学者)

• 「神(かみ)」の起源

- 同音語である「上」と同一語源と考える説と、別語源と考える説がある
- 漢字の「神」はもともと「シン」という発音に「申」という字を宛て、後に区別のために「示」がついた

「神」の日本語表記を巡る論争

• フランシスコ・ザビエルの警戒

- 来日前、日本人の神観(多神教)を聞き、聖書の神を「神」と呼ぶことは誤解を招くと考えた
- 「大日如来」に由来する「大日」と呼んだが、仏教と勘違いされたので「デウス」(ラテン語)と呼んだ

• 漢訳聖書における対立

- 「神天聖書」(英／モリソン・メドハーストラ)において「GOD」を「上帝(シャンテ)」と訳した
- 「BC訳」(米／ブリッジマン・カルバートソン)では「GOD」を「神」と訳し、日本にはこちらが先にもちこまれた！

「神」の日本語表記を巡る論争

• フランシスコ・ザビエルの警戒

- 来日前、日本人の神観（多神）を「神」と呼ぶことは誤解を招く
- 「大日如来」に由来する「大日」と勘違いされたので「デウス」

最初の日本語訳聖書（ギュツラフ訳）では「ゴクラク」と訳されている

• 漢訳聖書における対立

- 「神天聖書」（英／モリソン・メドハーストラ）において「GOD」を「上帝（シャンテ）」と訳した
- 「BC訳」（米／ブリッジマン・カルバートソン）では「GOD」を「神」と訳し、日本にはこちらが先にもちこまれた！

日本国内での論争

- 最初から「神」が優勢だった

- 先の理由から聖書翻訳においては「神」とすることに大きな問題は生じなかった(ヘボン)

- 実際には訳語(標記)における葛藤や論争があった(「七一雑報」の記事から)

- **真神**(しんしん)、真神(かみさま)、真神(まことのかみ)、真神(かみ)、真の神(まことのかみ)
- **上帝**(かみさま)、上帝(あまつかみ)、上帝(しやうてい)、上帝(かみ)、上帝(まことのかみ)
- **天父**(まことのかみ)、天父(かみ)、天父(あまつかみ)、造物主(かみさま)

「神」に帰結してしまった問題

•「神々」の1つになってしまった

- 本来、唯一絶対の神である方であるが、他の神々と同列になり、単に「キリスト教の神」となってしまった

•「上帝(かみ)」を何度か使った植村正久・内村鑑三

- 「人類の上に超越せる絶対の勢力」という表す

•「天神」と書いて「かみ」と読むのは？

- 神道的な連続性を否定し、他の神々との違いを表現できるのでは？

神の名である「主」の起源

・モーセの召命(出エジプト3:13~15)

- ・モーセは神に尋ねた。「わたしは、今、イスラエルの人々のところへ参ります。彼らに、『あなたたちの先祖の神が、わたしをここに遣わされたのです』と言えば、彼らは、『その名は一体何か』と問うにちがいません。彼らに何と答えるべきでしょうか。」神はモーセに、「**わたしはある。わたしはあるという者だ**」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『**わたしはある**』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」神は、更に続けてモーセに命じられた。「イスラエルの人々にこう言うがよい。あなたたちの先祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である**主**がわたしをあなたたちのもとに遣わされた。**これこそ、とこしえにわたしの名／これこそ、世々にわたしの呼び名。**」

神の名である「主」の起源

・モーセの召命(出エジプト3:13~15)

- ・モーセは神に尋ねたところへ参ります。イスラエルの人々の先祖の神が、わたしをここに遣わされた。彼らは、『その名は一体何か』と問うにちがいありません。彼らに何と答えるべきでしょうか。」神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」神は、更に続けてモーセに命じられた。「イスラエルの人々にこう言うがよい。あなたたちの先祖の神、イサクの神、ヤコブの神である主がわたしをあなたたちのもとに遣わされた。これこそ、とこしえにわたしの名／これこそ、世々にわたしの呼び名。

אֱהְיֶה YeHWeH
「私は～である」

יְהוָה YHWH

何と読むのか分からないYHWH

•モーセの十戒

- 「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。」(出エジプト20:3)
- この戒めを四角四面に捉えYHWHを読まなくなった

•YHWHを「アドナイ」と読む

- 正しく読むと十戒違反になるのでわざと違う読み方をした。それが「アドナイ／AdOnAy」(我が主)
- アドナイの母音をYHWHに付けると
「YaHoWaH」=「エホバ」になる！
- 最初の英語訳であるKJVで“Jehovah”と訳された
 - ただし4箇所だけ！

日本語にどう訳すのか？

- 旧約聖書を日本語に訳す際には漢訳聖書と英語訳聖書が使われた
 - 漢訳聖書において「主」は「**那和華神**」(Nà hé huá shén / google)と訳されている！
- 文語訳では「エホバ」が採用された
 - American Standard (1901年)ではYHWHは全箇所”Jehovah”である
- 口語訳聖書では「主」が採用された
 - 「エホバ」の間違いに気づき、新約聖書で使われていた「主」を聖書全巻で使うことになった
 - 新改訳では「主」を太字「**主**」標記にして区別した

なぜだが定着した変な日本語「主」

- 日本語で「主」を「しゅ」とは読まない
 - 訓読みだと「あるじ」「ぬし」: 救い主・地主・名主…
 - 「主(しゅ)」は音読み: 主人・主婦・店主・自主的…
- 聖書だけで使われている不思議な読み方
 - 「主:4. キリスト教で、神、またはキリスト。」(デジタル大辞泉)
 - YHWHだけでなくイエス・キリストも「主」と呼ぶ
 - 「七十人訳(旧約聖書のギリシャ語訳)」においてYHWHを「キュリオス(Lord)」と訳したことの弊害?
- 「主」は聖書の神の呼び名としてこの国に全く知られてもいないし、まして定着もしていない

では神の名前をどうするか？

- 今更変えても仕方ない

- キリスト教会では「主」で定着している

- 「**ヤーウェ**」に戻すのはどうか？（おそなくこの読み方がオリジナルだと学者の意見は一致）

- ユダヤ人は今でも「**アドナイ**」と呼ぶ

- **大切なのは呼び方ではなく正しく伝えられること！**

- 創造主にまして唯一絶対の神。裁き主でありながら救い主である神。義なる神でありながら愛なる神。完全に聖くありつつ罪人と共におられる神